平成 23 年度　JSR 編集委員会

日時：2011 年 10 月 21 日（金曜日）　7：00～8：30
場所：前橋さくらホテル　3 階　楓

議題
1．星野担当理事から理事会の報告
- 雑誌を on line に移行できないか
- 広告を理事全員にも依頼
- 日本脊椎脊髄病学会および日本脊髄外科学会と専門医制度作成について共同ワーキングを立ち上げの予定

が理事会で審議中であることが報告された。

続いて、松永委員長が議事を進められた

2．JSR についての進捗状況
2 巻については準備が円滑に進んでおり、第 3 巻も準備良好である。
しかし、accept 後の掲載に時間がかかっており、長い場合には 1 年経過することがある。日本内視鏡低侵襲脊椎外科学会の号に受諾論文を追加させてもらう予定であるが、一方で各学会号には掲載が厳しいという意見も出ている。西日本脊椎研究会では、会員の方の原稿を優先して掲載してもらいたい。日本側弯症学会も雑誌が分厚くなるが可能であり、内容は側弯でなくてもかまわない。東海脊椎脊髄病研究会は来月開催される会議で討議する。

3．超過ページへの対応
なるべく、制限ページに収まるように各学会とも努力する。日本脊椎・脊髄神経手術手技学会はおそらく今後超過分の掲載料を会員に徴収することになる。日本脊椎インストゥルメンテーション学会は学会担当号に対して独自に広告をお願いし賛同してもらい広告料をもらって補填した。各学会で広告料を依頼することは問題ない。側弯症学会はこれまで制限ページの設定をしていなかったが、今後設定する可能性もある。第 1 巻 1000 万円、第 2 巻 500 万円程度日本脊椎脊髄病学会から補填した実績があるが、第 3 巻はこれまでよりさらに少額として欲しい。

4．広告依頼
現状では 18,589,200 円の広告料を徴収できる予定である。しかし、できれば 2300 万円を達成したい。製薬メーカーからは多くの実績があるが、今後インプラントメーカー

への依頼も進めていかねばならない。広告依頼活動は重複しても構わないので、今後は理事にも依頼を努力してもらう。

5. 投稿

本来は会員に限定していたが、日本腰痛学会は PT や OT などのコメディカルからの投稿もある。腰痛学会は本来、会員でなければならないと会則に記載されているが、JSR の投稿規程には記載がない。JSR の投稿規程にも今後投稿には会員でなければならないと記載する予定である。

6. On line submission

千葉先生から on line submission について解説していただいた。あり方委員会でアンケートを出版社に実施したが、多くの出版社は on line 化に意欲的ではない。
続いて、京葉コンピューターサービスからプレゼンしていただいた。
日本手外科学会は on line 化を 11 月 1 日から運用したが、これまでに 2 年程度要した。目的は、

○ 学会サイトから投稿できるようにする、
○ 会員 ID、パスワードで入力すれば、会員が投稿できるサイトに移行できる、
○ 学会投稿は on line で一元化、
○ On line 化で郵送、製本化に要する費用が節減できる、
○ NML, XML によるデータ形式の標準化を要する、
○ 学会員はサイトから自由に PDF でダウンロードできるようにする、
○ 予め登録された会員データベースを利用して抄録作成できるようにする、
○ 日本脳神経外科学会はこのシステムで 800 万円程度減額が達成できた、
○ サイトへの広告依頼も、学会員のみに広告活動ができるため、特別なメッセージの作成ができ、企業からも好評である、

などが説明された。

今後、日本脊椎脊髄病学会もオンラインジャーナル化を進めていく。レイアウトーや査読システムを統一する必要がある。

救急学会では、刷子化されたジャーナルを希望する会員には 3000 円プラスでチャージされたが、日本手外科学会は当初無料となっている。会員にはサイトから希望を聞く予定である。

各学会の会則は各学会のホームページにアクセスするようにしてもらい、電子ジャーナルにはあえて掲載しない。

各学会の抄録は JSR とは独立して各学会で作成可能である。日本脊椎脊髄病学会は抄録も電子化し、I pad にダウンロードして見れるようにする。

各学会担当の JSR 投稿論文も脊椎脊髄病学会の ID、パスワードで査読できるようになる。

例えば、腰痛学会のみしか会員でない場合はどうするのかについては今後検討を要する。

８．二重投稿
Publish して最低でも別のジャーナルへの投稿は 1 週間を経過してから行う、
日本語圏、英語圏の別のジャーナルへの投稿である、
初版の出版社や学会には承諾を受ける、
などが守られれば、2nd publication は可能である。しかし、その場合はタイトルにも 2nd publication であることを記載することを要する。
上記は、日本脊椎脊髄病学会としても認容の方向である。
JSR 英文論文を英語論文に投稿するのは問題がある。
実際は、International Committee of Medical Journal Editors に従う。

９．各特集号の体裁
日本脊椎・脊髄神経手術手技学会：オリジナリティーを出したい。見出し、原著、レクチャーの言語をジャーナルに使用したい。

１０．査読
JSR 投稿論文は 50%程度の accept
雑誌 Spine は統計学者が査読をしており、将来的には JSR でも統計学者による査読を採用すべきであろう。
平泉先生は査読委員を継続してもらう。
査読委員は学会会員以外でも可能にしていく。

１１．各学会の分担金
第 3 巻も各学会 150 万円で現状を維持していただく。

１２．新任のメンバー：本日から採用とする。
日本脊椎・脊髄神経手術手技学会：長谷斉先生（京都府立医科大学）

日本腰痛学会：二階堂琢也先生（福島県立医科大学：事務局が日本医科大学から移動）

13．編集担当者の変更
次回開催については連絡することが合意され、閉会となった。